

森林官の一日

静岡森林管理署 表富士森林事務所 森林官 加沼 睦子



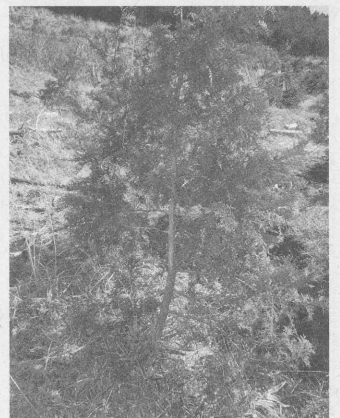
台風被害地から望む霊峰富士

霊峰と古くから崇められる富士は山梨県と静岡県を跨ぎ聳える、日本一の高さを誇る山で、国内外を問わずその存在を広く知らしめています。さてこの富士山、山梨県側は殆どが県有林ですが、静岡県側は、概ね標高1,000mから3,200mまでは国有林で、12,418haを、4つの森林事務所が分担して受け持っています。私が務める表富士森林事務所は、南から南西にかけての3,737haが担当です。富士山の登山口としては最も高所に位置する富士

宮口を擁す当事務所管内の森林は、御存知の方も多いと思いますが、平成8年に大規模な台風被害に見舞われました。その面積、富士山国有林だけで620ha。民有林と合わせた総面積、1,000haに及びました。それを機にボランティアを受け入れ、被害地への植付が概ね片付いた現在も、下刈や保育間伐、枝打といった作業で多くの団体が富士山に関わっています。特に春先から秋にかけての休日は、ボランティア活動が盛んに行われ、技術指導などで間伐や下刈作業に参加することが多く、また受け入れ準備のため保育間伐地の選定や調査をしたりという仕事に追われています。

ボランティアによる下刈はほんの一部で、その殆どを請負事業により実施していますが、此処に來た当初、私は下刈面積が72haあると知り度肝を抜かれました。これでも減ったのだと云われて、二度びっくりです。この下刈、林業ではきれいに刈り払って当然の作業と思っていました。この一年でその認識を新たにさせられました。富士

山はシカが非常に多く、ヒノキの苗への被害が深刻なものです。きれいに下刈をしなければ育たないような気がしますが、するとシカの害を受けやすくなり、被害によつて苗木が枯れて出来た空間や皮が剥かれて間もない細い幹が眼に入り、きれいに刈り払うのが良いのかおもわず考えたいまいます。



シカに皮を剥かれたヒノキ

その張本人であるシカが憎いかといえど、そうでもなく、その愛らしさにカメラが手放せません。すらりとした肢体もよいですが、冬は体毛が黒っぽく、尻だけ白く目立ちます。それが緊張するとポンポンのようにひろがるのが堪りません。「ああ、触りたい」という衝動に駆られます。下刈の場所と作業班を追っかけるのに四苦八苦した平成18年の夏、「天然生林管理水準確保緊急対策」という事業が新しく始まりました。天然生林が主体となる国有林野で、近年入り込みが増加している山を中心に、人為による植生荒廃等の防止を図ることを目的に非常勤職員を雇用

し巡視等を行う事業です。富士山も対象となり、当事務所に配置された2名の巡視員は富士山の写真が印刷された葉を配りながら休日と平日、週三日、巡視と登山者の意識向上に努めてくれました。職員でも林業従事者でもなく、純粹に山が好きなの意見は、私がつたく意識していなかった、山を楽しみたい人の視点に立つたものであり、一般の人に国有林がどう見られているのかを知る良い機会になりました。富士山が外国の人に大変な知名度があると認識したのもこの時で、学ぶことの多い事業でした。

まもなく、一年が過ぎようとしています。まだまだ半人前ですが、この一年で学んだことを少しでも活かしたい山にしていきたいと思えます。



葉を配り登山者に呼びかけるスタッフ